第２号議案

令和４（２０２２）年度　事業方針及び計画における総括

＊法人の目的、経営目標、事業所目標、支援及び指導における基本方針、重点目標までは共通項目となる。各部にて共通項目を抑えた上で、令和４年度の目標を立案し、具体的行動計画（案）を作成していく。

＜参考資料＞

１　法人の目的

・この社会福祉法人は（以下「法人」という。）は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるように創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるように支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

（１）　第二種社会福祉事業

・障害福祉サービス事業の経営

・障害児通所支援事業の経営

２　経営の原則等

・この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

・この法人は、地域社会に貢献する取り組みとして、（地域の高齢者、子どもたち等々）を支援するため、無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。

⇒R4 中間総括における「生活及び B 型の仲間たちを小グループに分け、地域の独居老人又は高齢夫婦世帯においてのお手伝い（庭掃除等）」の積極的導入について

⇒未実施

⇒R5 においても引き続き導入にための準備を実施していく。

３　経営目標

（１）　農林業を主軸とした労働の提供を行い、発達を先導する労働実践を行う。

（２）　自立社会参加を目指して、豊かな心と社会性を育てる活動を行う。

（３）　支援員及び指導員一人ひとりの専門性の向上を図る。

（４）　地域住民に対して障害児者への理解を促進させるための啓発活動を行う。

（５）　利用者一人ひとりのニーズを把握し、一人ひとりの将来を見据えた事業展開を行う。

４　事業所目標

（１）　個々の実態に応じた支援及び指導を行い、個々の潜在的能力が十分発揮できるように取り組む。

（２）　個別支援とグループ支援の連動性を高め、豊かな人間関係の構築を目指す。

（３）　支援員及び指導員同士の共通理解を図り、利用者が主人公としての適切な事業所運営を行う。

＊様々な諸会議や研修等、直接に仲間たちや子どもたちとかかわらないところでの支援及び指導のあり方又は基本的な構え等が仲間たちや子どもたちを主人公として深めていくための目標、手立てを考える。

⇒「利用者（仲間）が主人公」を実現していくためには、「支援」「発達的共感関係」などいくつかのワードを考慮し、あらためて「私たちの仕事とは何か」を考えていく必要を感じている。支援の原点とは“共に活動する”のが基本であり、その時間帯に支援員及び指導員が抜けて、他の活動を行なうことは本来あるべきことではない、と考える。それが本来業務であり、その業務を補完するために諸記録が存在する。支援記録とは、個別支援計画に基づく実践の記録であり、また、業務日誌等必要最低限の諸記録をいう。PDCA サイクルに基けば、計画～実践～評価・課題は最低限記録されなければならない。これらの諸記録等事務作業は本来業務である支援を補完するものであって、支援より優先されるものではない。また、諸記録よりも重要なこととして、教材研究があると考える。教材研究というと学校のように感じてしまうが、取り組みを進めるにあたっては、より豊かな実践を進めるうえでの具体的な教材が必要不可欠であり、これは、個々それぞれに必要であって、この教材によって、取り組みのゆたかさは決定してしまうほど重要なものである。あらためて各部署での状況を振り返る必要がある。そして、原点＝支援優先の考え方に立ち、事務作業の効率化及び削減を図る必要がある。

5　指導及び支援における基本方針

（1）　基本的生活習慣の安定を図る取り組みを推進する。

（2）　労働意欲を高める取り組みを推進する。

（3）　創造的思考を高める取り組みを推進する。

＊１～５までは各部共通

6　重点目標

（1）　実践を通して、法人の特徴を創造し、その特徴を活かした支援及び指導体制の確立を目指す。
～簡潔なスローガンを考える。⇒法人スローガン「ゆたかな地域コミュニティを創造しよう」に。

（2）　利用者、保護者、事業所、関係機関等々との連携を図り、一人ひとりの適切なニーズ把握を行う。

（3）　共通理解された課題の獲得に向けたプロセスを実践し、科学的検証を試みる。

（4）　地域との連携を推進する。

（5）　安心、安全な事業所運営を目指す。

＊上記重点目標は各部共通とする。

7　令和４（２０２２）年度目標

（1）　支援スタイルの確立を目指す。（支援デザイン、個別支援計画、支援案等々の作成）
⇒4.事業所目標（3）にかかわって、個別支援計画の記載事項の変更を実施。
＊支援案は生活（コンサルでの支援案）が提出済み

（2）内部研修及び外部研修の充実を図る。（発達を保障すべく理論学習の推進）

（3）実践報告集（年度まとめ）を作成する。

（4）保護者との連携を進める。（サロン及びまとめの会等）

（5）地域主催の行事等への参加及び事業所主催の行事への勧誘を図る。

（6）防災計画の充実を図る。

（7）第Ⅰ期１０か年計画（H24～R４）の総仕上げを計画する。
～本館及び西館の活用方法の模索

（8）第Ⅰ期５か年計画（R５～R10）の立案を行う。
～社会福祉充実計画に沿った形で進める。
⇒（7）、（8）については次年度事業計画において第Ⅱ期５か年計画として提示していく。

8　具体的行動計画案

（1）支援スタイルの確立を目指す。

・生活介護及びデイについては、それぞれの特徴を明らかにしつつ、取り組みの変遷をまとめ上げる。

⇒前期「骨子作り」⇒具体的分担案作成

⇒後期「作成」⇒修正、完成へ

＊未提出

・B 型については、令和５年度以降の取り組みを見据え、ごうでぃんぐの目指すものをまとめ上げる。

⇒前期「骨子作り」⇒他部から学ぶ

⇒後期「作成」⇒修正、完成へ

・支援案等については各部各取り組みを進めるにあたって、必ず、1 回は案を作成し、事後検討会を実施することとする。進めるにあたっては、支援案をケース会議にて確認し、実施後、同様にケース会議にて検証をすることとし、それら一連の諸記録をまとめておくこととする。なお、支援案に基づく実施を映像として記録し、その映像を事後分析する方法でも可能とする。

⇒前期提出

⇒後期提出

＊生活（コンサル）

＊デイ～1 研修提出（個人）

（2）内部研修及び外部研修の充実を図る。（発達を保障すべく理論学習の推進）

・各部より参加させ、指導員並びに支援員の資質向上のために職員としての基本的構えを学ぶ。（私たちが大切にしたい障害者支援のためのガイドライン）＊繰り返し学ぶ。

⇒年度当初、「法人・事業所方針に係る内容の確認」「虐待防止に係る研修」を実施。

＊以降は予定した内容「ラーニングガイド」を中心に実施する。

＊全 16 回実施。12 月以降は各部まとめ等の作業を優先させ取りやめる。

・実践研修の随時導入（各部交換研修の導入）＊それぞれが意見交換し長短を検証する。

・外部研修として、サビ管研修（更新研修）、専門相談員初任者研修（更新研修）、強度行動障害基礎研修又は実践研修、虐待防止研修、県発達障害者センター主催の研修、人間発達研究所主催の研修、全障研主催の研修、きょうされん主催の研修、その他の研修へ積極的に参加していく。

⇒法定研修他参加

（3） 年度まとめを作成する。⇒まとめの会にて発表する。

（4） 月１回のサロンの継続を図る。⇒今後のサロンのありかたを検討する。

（5） 神戸地区町内会及び各種団体との連携を模索し、少しずつ、地域と連携した行事等を企画、活動を実現していく。⇒町内会、福祉推進会との連携を模索する。

⇒未実施

（6） 新たな場所における避難訓練に慣れつつ、地域と連携した防災活動を模索していく。

⇒未実施

（7） 本館及び西館の活用方法を模索する。⇒基礎集団のありかた、集団間のかかわりかた等々

（8） ＧＨの調査研究を進める。＊相談員との連携（GH の情報収集）

ごうでぃんぐ岩世ケ原　通所生活介護
令和４年度　　活動総括

《基軸》
・基本的生活習慣の安定を図る取り組みを推進する。
・労働意欲を高める取り組みを推進する。
・創造的思考を高める取り組みを推進する。

《重点目標》
・指導支援を通して法人の特徴を創造し、指導体制の確立を目指す。
・利用者、保護者、事業所などと連携を図り的確なニーズを把握する。
・共通理解された課題を実践し科学的検証を試みる。
・地域連携
・安心、安全な運営を目指す。

上記を基本とし
１、グループ支援プログラムの充実
＜活動実績＞
本館は基本的生活の安定を図る、西館は労働意欲を高める取り組みをそれぞれ軸とし、個別活動、学習活動、創造活動等を一週間のプログラムに配置し活動した。
各活動前には事前説明を行ない、何を・どこで・するか、準備から作業内容までを仲間と確認し合っている。活動の最後には評価を行ない、それぞれの活動を振り返っている。

・労働（畑、、山、洗車、環境ボランティア等）
今年度は山の撤退作業があった。夏の熱い時期仲間達は樹木の撤去や敷地の片付けを頑張ってくれた。ごうでぃんぐの敷地内でも椎茸は順調に育っている。
畑と花壇にイラスト等の区分カードを作り作業区分の可視化を行なったことで終点が見え達成感も得られるようになった。
その他畑作業、洗車、環境ボランティアも定期的に行えている。

・委託作業（清掃・除草等）
事業所からの委託作業が加わりごうでぃんぐの敷地や建物の環境整備も行っている。庭の草取りや洗車など慣れた作業に加え、くもの巣取りやポーチの清掃なども定期的に行った。労働班の活動で外作業が増え、除草には仲間達に扱いやすい草取り棒など用具も充実したこともあり、生育の強い夏の時期も畑や庭の除草が継続的に行え敷地内の環境が保たれた。
また、畑倉庫や長靴倉庫の清掃も定期的に行っている。

・創造的活動（音楽療法、アート、季節の飾り等）
季節ごとの壁画はテーマを決め仲間と一緒に何を描こうか決めている。仲間からはその季節の行事や食べ物等アイディアが出ることもある。

音楽療法では各部屋３０分の中で、体を積極的に動かしたり仲間と関わるプログラムを行っている。皆それぞれの楽しみを見つけられている。

アートはAD指導のもと仲間それぞれの気持ちを尊重し、見守りながらアートに向かえる配慮をした。４月からアート時のみ利用している仲間も環境に少しずつ慣れて自分のペースで描け、イベントの参加もでき、滞在時間が長くなっている。

・調理実習(昼食作り、おやつ作り)

本館での昼食作り、西館でのおやつ作りを月交替で行っている。夏祭りでは屋台でのかき氷作り、クリスマスランチ、鏡開きのお汁粉作りなど季節を感じるイベント的な調理の他、防災訓練の非常食作りも行った。手洗い・マスクの着用は徹底でき、調理器具の取り扱いも安全に行えた。

・お茶や生け花・習字等の文化的活動

お茶では畑の茶葉を皆で揉み新茶を楽しむ会やお茶席で抹茶を楽しんだ。お茶を立て、仲間に提供することも体験できた。

習字は定期的にプログラムに組み込み、年始には書初めも行った。大きな紙にも皆果敢に挑戦し、自分の思いを表現できていた。

春・夏・秋の生け花ではほぼ事業所内で育てた花を利用して生けることが出来た。

仲間たちは思い思いに花を選び、そっと生ける思いやりもみられた。

・感謝祭に向けた活動

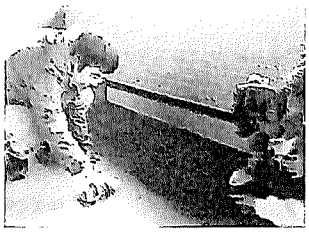
労働創造委員会主催によるテーマ文字を、紐を結ぶ・ねじるなど工夫し楽しみながら作品にしていった。

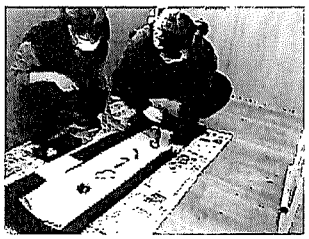
・新規活動プログラムの追加

今年度は従来のプログラムを仲間たちにより分かりやすく丁寧に行うことを重視したため、新規プログラムは増やしていない。

畑作業

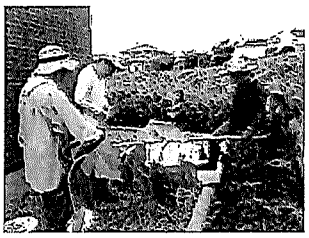
委託（クモの巣取り）


（ポーチ掃除）


習字

茶もみ

工作


庭掃除

夏祭り（おやつ作り）

2、個別支援の確認（修正・追加・変更等）→個々の能力を伸ばす取り組み

＜活動実績＞

月曜の個別活動の時間は週の写真から月の写真に変更したことで、個別計画に沿った個別活動の時間が充分に持てている。個々の作品作りや工程学習、末端投射運動などをじっくり行い、落ち着いた時間の中で週の始めをスタートできている。

・個別ノートの充実（単一でない個々に向けた取り組み）

これまで行っていた振り返り写真は月の写真として月末に行っている。コメント欄を設けたことで、家庭からの感想を聞くこともでき、コミュニケーションツールとしても役立っている。これまでのノートは日記、アート作品、文字の練習など個々の計画に沿った活動に利用している。

・支援員間のコミュニケーションを密にする。（伝達ノート、ケース会議等の充実）

各部屋にリーダー・サブリーダーを置き、役割分担を明確にした。

支援員間のコミュニケーションは伝達ノートを主に、各部屋のリーダーを中心に確認し合っている。またミニケース会議を週２回開催し、サブリーダーが個別の事案についての話し合いを行っている。

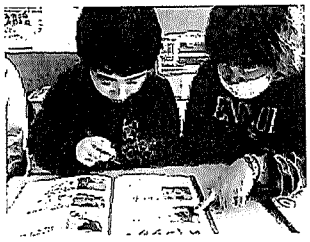
・保護者とのコミュニケーションの充実。（サロン、連絡帳、送迎時の情報交換等）

月に一度のサロンはＢ型からの転入もあり今年度は参加者が増えている。保護者・ごうでぃんぐ双方にとって充実したコミュニケーションの場となっている。

・個々の能力の確認。（常に柔軟に対応する）

活動の中で仲間それぞれの躓きや成長を見逃すことのないよう支援員間で確認をしあっている。

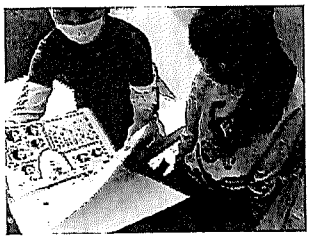
月の振り返り写真



個別活動　（工程学習）

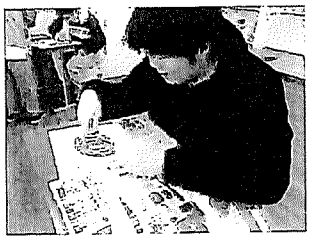
（お面作り）

（文字の練習）

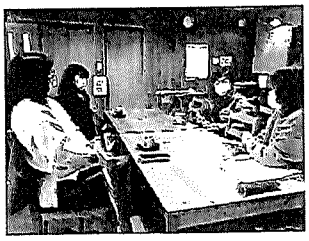


（発語練習）

（ちぎり絵）



（アート）



サロン

3、地域との関わり

・コロナ禍における外部活動のありかたの再検討

・環境ボランティア(地域のゴミ拾い)の継続

・公共機関の使用におけるマナー学習（図書館の利用や買い物体験等）
・感謝祭のチラシ配りにおける地域の方とのコミュニケーション
・外活動の際の挨拶

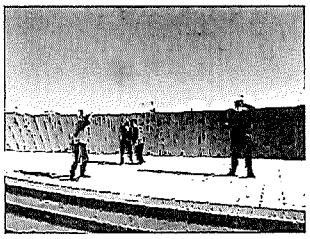
＜活動実績＞

コロナ禍で行えることに制限はあるが感染対策を行い外出している。環境ボランティア、散歩、図書館等定期的に行い、近隣の方や館の方への挨拶も行えている。また、秋にはミニ遠足に出かけることもできた。

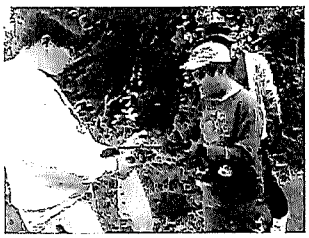
環境ボランティアでは近隣の方から「ありがとう」の言葉や散歩で声をかけてくださる方もおり、ごうでぃんぐが認知されてきていることを感じる。

マスクの着用、消毒、手洗い、うがいなど事前の説明で理解して無理のない範囲で行えている。

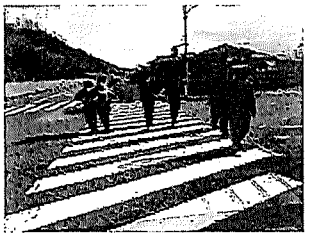
図書館



秋の遠足


環境ボランティア

買い物


散歩

4．成果

・感染症対策を行ないながら色々な活動が行えた。
・畑や庭掃除の区分を決めたことで作業範囲が分かりやすくなった。
・畑作業や庭掃除など昨年より範囲が増え労働時間も長くなったが、皆それぞれの得意な作業を頑張れた。
・事前説明を丁寧に行なう事で仲間達は参加する準備ができた。
・本館（空・星）と西館（虹）に活動室が３か所になったが、職員は意識してコミュニケーションを取り支援に取り組めた。

5．課題

人数が増え、部屋ごとの問題も見えてきた。仲間の状況を常に把握し安定した生活が送れるよう配慮する必要がある。

個々に合わせた活動での手立てを充実させたい。

一年を振り返り

今年度はＢ型から移動した仲間、高等部からの通常通所の仲間と金曜日のアートから始めている仲間が加わり、利用者は１７人になった。

西館のオープンで部屋割りが変わり、年度の途中で日課が一部変更になり、いろいろな変化で仲間達は戸惑う事もあったと思うが、少しずつ環境に慣れ活動してくれている。

コロナ禍ではあったが、可能な範囲で外出をし、イベントも取り入れて楽しく活動出来たのではないかと思う。

６月から３回のコンサルテーションを受け、基本的生活・労働意欲・創造的思考での仲間達の様子や支援の問題点などスーパーバイザーである宍戸先生に指導していただくことができた。

７月の第三者評価を機に様々な支援の見直しが図られた。職員にとっては大きな変革で戸惑いもあったが、利用者の側に立った支援を第一に考え取り組んでいる。次年度以降、この体制をしっかり定着させ仲間達が安心して居られる生活介護にしていかなければならない。

利用者ファーストを常に念頭に置き支援したい。

所長	~~事務長~~ 副所長	担当	報告者

お茶を楽しもう（令和4年度まとめ）

本年度は、新たに新しい仲間を加えて、茶会を行った。
各部屋ごとの開催ではあったが、部屋ごとの独自性が現れた。　空、星の仲間は、落ちついた雰囲気の中で、行う事ができたと思われる。　虹の仲間は、どの人も　自分のスタイルを全面に出し、楽しい茶会であった。
茶会は、楽しい、という思いは仲間達に根付いたと思われる。
亭主との問答では、緊張した趣きの人も数名いた。
コロナ禍で、開催する時期に迷ったが、仲間と茶会ができた事は、喜ばしかった。
茶会に携わった支援員も、楽しい一時を味わう事ができた。
次年度は、新たな試みで野点など屋外にて、催してみるのも考えている。

所長	~~事務長~~ 副所長	担当	報告者

針を使おう(令和4年度まとめ)

本年度は、新たに仲間達と事業所の名前が入ったロゴ作りを行う。
(タペストリー G.D.C)
仲間達が誰でも参加できるようにと、今回は考えて、基本となるキルティングの土台の部分を中心に製作した。
一針一針、針を進めて行く単純な作業ではあるが、どの人も作品に携わる事ができた。
作品は、感謝祭の時展示する事ができて、良かった。
前作品のクリスマスタペストリーとは、違った雰囲気の物ではあるが、一緒に仲間と作りあげたと言う意識は強い。
作品作りを通して、仲間としての連帯感も生まれた。
ロゴ入りのタペストリーは、今後事業所の行事の時に使用したい。

令和　　5年　　4月　12日

所長	副所長	担当	担当

担当者　初又　玲子

事業報告書

内　　容	和紙作り　4～3月の一年間 ・正方形・長方形・コースターを作ろう
実施日時	令和4年　　1月　～令和5年　　3月
場　　所	空　星　虹
対　象　者	利用者　　16名 空）高橋、木村、安川、西本、篠澤、 星）山田、中村、野田頭、水野、渡邉 虹）伊藤、長谷川、小川、長橋、川上、鈴木
目　　的	ちぎる、詰める、振るなどの作業により手の巧緻性を高める。 素材に季節の草花を使い、自由に楽しみながら製作する。
購入予定金額	44円
参加予定者	利用者　16名 （職員）：細野、千葉、大川、佐川、初又 萩原、後藤、植松、田中

購入及び使用材料

材料	数量	単価	金額	備考
トイレットペーパー	1巻き170m	44円	44円	前年度からの在庫も使用
ティッシュペーパー	2箱	—	—	在庫（寄付）
お花紙	適量	—	—	在庫
季節の植物など	適量	—	—	畑より採取
合計			44円	

【活動内容】

今期の活動では、正方形・長方形・コースター作りを計画し、どの仲間もいろいろな工程に関わり作成することができた。コースターは畑で育て乾燥させたローゼルティーと一緒に感謝祭でセット販売した。長方形の製作は仲間の修了証書の台紙として使用できるよう、目的を持って活動した。2月にはコンサルテーションでは宍戸先生評価をいただいた。

【成果】

どの仲間も指先を使ってちぎる作業や詰める作業を手元を見てやることができた。新しい仲間も和紙作りを経験していたこともあり、楽しんで活動できた。

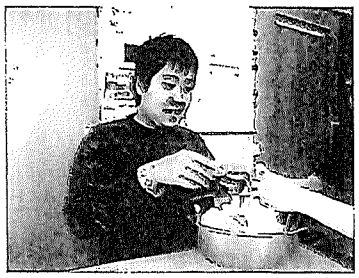
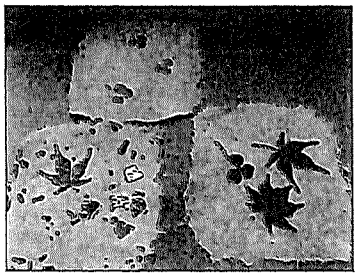
コンサルテーションでは、個計の課題に沿った支援方法や作業体勢についてアドバイスをいただ

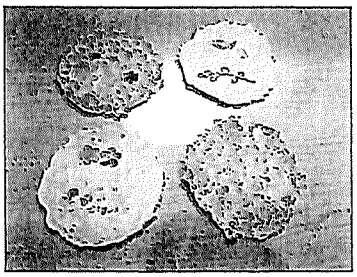
きその場で実践し見直しをすることができた。修了証書を自分の作品として飾り付けして作成した仲間もいて、受け取った時は嬉しそうな表情が見られた。

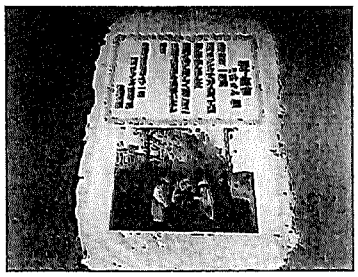
【課題】

紙の準備は仲間と一緒にやることができたが、道具の準備や片付けも作業の一環として行えるよう、時間の配分を考えて活動するようにしたい。コンサルテーションの評価にもあったように、創造の楽しさを第一に考え、仲間の身体の使い方や表情をよく観察し、個々に合った作業体勢や作業量の加減をして集中力の持続に繋げる。

【活動の様子】





所長	サビ管	副所長	担当者

ごうでぃんぐ岩世ケ原就労継続支援Ｂ型　令和４年度報告　（総括）

【目標】

1．仲間一人一人が安定した基本的生活習慣を築くことができ、自分の生活を少しずつ管理できるようにする。時間を意識した生活が送れるような支援方法を探る。

2．グループ作業により仲間一人一人が「できること」「得意なこと」を見つける。

3．仲間が共同して「できる作業」を探る。

4．目標工賃平均 7,000 円　売上 40,000 円/1 か月

≪年度報告１≫

1．利用者個々によって、認識力（発達）の違いが見られるため、それぞれの手立てを工夫した。

2．できること、得意なことを見出す。

3．共同作業を見出す。

4．工賃の算定表を構築した。

橋田健太郎・・概ねの日中の流れを認識しているが、好きなことや嫌いなことで作業の動きに違いが見られた。例えば、一般来客者に対しては、不安定になり、隠れてしまったり、便失禁などがおきた。外作業では、集中力が短いため、落ち着いて作業をする時間が短かったが、最後まで、関わることはできた。Ｂ型ランチでの調理では、最後まで関わることができた。

４月～１２月の平均工賃は、5,896 円であった。

手立ての工夫⇒一般客との接点を減らすため、出来る限り外作業や委託作業を中心とした作業内容に変更した。

柿平珠奈・・・自分ができる作業はてきぱき行い、また、その作業を他の利用者が行う事で気分が不安定になり怒り出したり物を投げたり、隠したりした。返事や挨拶はしっかりでき、近所の評判もよい。

４月～１２月の平均工賃は、5,414 円であった。

手立ての工夫⇒がんばり表や一日の確認表、イラスト入りの貼り紙などを目で見て確認できる支援を行った。カフェや外作業など支援員と１対１であれば安定して作業ができた。

吉成大樹・・・半年ほどで、ごうでぃんぐの作業内容を認識し、落ち着いて作業を行うこ

とができた。柿平さんからのキツイ言葉掛けで泣いてしまうこともあったが、カフェ作業や畑作業など安定して活動ができた。接客も笑顔でできたが、もう少し就労意識を高めたい。

４月～１２月の平均工賃は、6,852円であった。

手立ての工夫⇒作業労働と休憩のけじめができ辛い部分が感じた為、支援員がその都度、声掛けをしながら、作業の継続を行った。

※利用者３名に対して、支援員が２名であるため、余裕ある支援ができそうであるが、橋田さんの弱い部分に手立てを当てたことで、支援員の作業分担が明確になり、「カフェ作業」と「農業、委託作業」に分かれることになった。１ヶ月程様子を見ながら支援をすることで、便失禁も無くなった。１２月までは、この取り組みを続けてきたが、支援員が１名辞めることになり、今後、取り組みを一部変更せざるを得なくなった。今後は、利用者が増えたことを想定しながら、作業工程や支援員のシフト体制も考慮しなければならない。

現状の取り組みは、

月、火・・・一般カフェは閉店　（支援員１名と利用者３名で農作業と委託作業）パン作り

水、木、金・・・一般カフェ開店（支援員１名と利用者１名でカフェ）パン作りその他利用者と支援員１名で農作業と委託作業

以上である。現状は、副所長が協力しているが、今後は、新規支援員１名で支援したい。

≪年度報告２≫

１．協力すべきこと

・自分たちですべきことは理解しており、一日の始まりの準備はできた。

・タイムカードの打刻については、ミス打ちや忘れることもあったため、支援員が打刻することにした。

・荷物の整理は自分たちでできるが、柿平さんは他の利用者の持ち物を触ったりおせっかいが多いため、ロッカーを鍵付きに変えた。

・朝礼や作業準備はできた。

※柿平さんについては、その時々で気に入らないことがあると、物を投げたり怒鳴ったりすることがあり、クールダウンする為に訓練室にしばらく一人でいることもあった。

２．カフェ作業

・１１月３日より、一般開店した。当初は、今までのパンの保護者注文を中止する予定であったが、そのまま継続して、来客者への販売もおこなった。その為、売り上げが下がることはなかった。

3．農業

・3月のじゃが芋植え、5月のさつま芋植えなど、根菜類の植え付けを行った。収穫後は、近所へ訪問販売を利用者と共に行った。とても好評で、売れ行きも良かった。反省点としては、どこの事業所なのかパンフットを持参すればよかった。その後、パン作りが忙しくなってきたため、椎茸作業、葉物や畑の開墾などは、労働創造委員会を通して生活介護が主に行うようになった。その為、カフェ作業（パン作り）がスムーズに行くようになった。また、委託作業である、草取りや建物の内外の掃除も何とか継続できた。

4．工賃向上計画

・工賃算定表を作り、基本工賃を7，０００円としたが、。毎月、欠勤、作業態度など全てを評価して工賃を割り出している。最高額7，０００円、最低額4，５００円である。年度末には調整手当を計画している。

≪成果と課題≫

・4月より、前年度の利用者の事業所変更もあり6名から3名と利用者も減り、体勢的には動きやすくなった。パン作りも少しずつ種類を増やしながら、購買意欲も上がって行った。

・物価高によって、光熱水費や仕入れ値が上がっているが、一度値上げした為しばらくは、現状維持で推移したい。

・パンやカフェランチもなかなか好評で、作業する利用者も楽しんで作業を行えた。

・夏場の外作業は暑さとの戦いで、熱中症など気にする部分も多くあったが、水分補給や労働時間などを配慮しながら行う事で無事に過ごすことができた。

. B型利用者の増員について、現在、利用者数は3名であり、定員10名に対してまだまだ少ない。支援学校からの卒業生は、来年度はない。いつでも増員できる取り組みを構築していきたい。

＊手立て1・・・カフェ作業や委託作業など内容を明確化しPRをホームページに載せる。
手立て2・・・市役所の福祉課の棚にB型のパンフレットの内容を詳しく追加して置く。

＊今後のB型の作業内容については、現状の2グループに分けることが望ましいと考える。

グループA・・・カフェや調理などが好きな利用者に対しては、カフェ作業中心に取り入れた作業をおこないたい。

グループB・・・委託作業や農作業、外部販売などの作業を取り入れたい。

目標を掲げた中で、どれ程達成できるか分からないが、利用者の平均賃金を底上げすることを目標に支援を継続したい。

ごうでぃんぐ岩世ヶ原　放課後等デイサービス

令和４年度　総括

≪基軸≫

・基本的生活習慣の安定を図る取り組みを推進する。

・労働意欲を高める取り組みを推進する。

・創造的思考を高める取り組みを推進する。

≪重点目標≫　前年度継続

・支援指導を通して法人の特徴を創造し、指導体制の確立を目指す。

・利用者、保護者、事業所などと連携を図り適切なニーズを把握する。

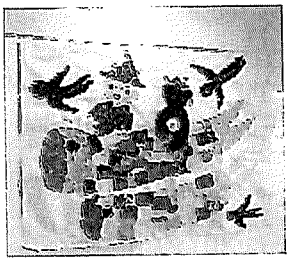
・地域連携

・安心、安全な運営を目指す。

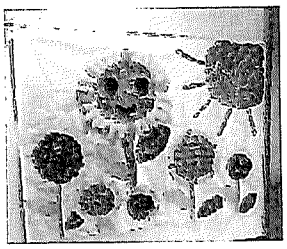
１．グループ支援プログラムの充実

・壁画作成、立体作品の作成（利用者主体）

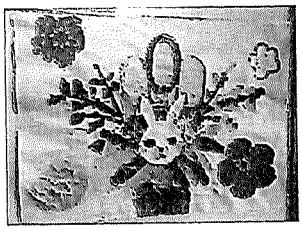
毎月の壁画制作では利用者が力を合わせて完成させました



５月の壁画

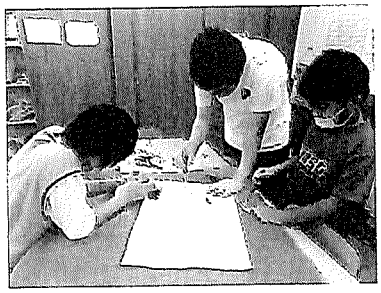


８月の壁画



１月の壁画

色水遊びや切り絵を貼って楽しみました。参加した利用者は色の変化を楽しみながら取り組みました。



・ミニ運動会

体力づくりでは、デイの運動会としてみんなで楽しみながら、体を動かしました。

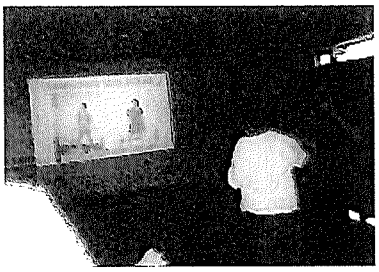
ケンケンパ―や縄跳びなどみんなで協力して取り組むことが出来ました。

・創造的活動（音楽、劇、ダンス、歌、等）、

・ダンス

ダンスには利用者も興味津々でした。感謝祭や20歳を祝う会に向けてカフェにて動画を見ながら、ダンス練習を一生懸命取り組みました。（踊った曲：サチアレ、つばめ、OLA！等）

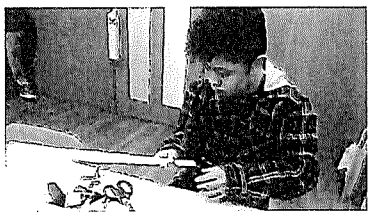
今年は感謝祭や20歳を祝う会に向けてダンス練習をすることができました。



・工作活動

カレンダーや段ボールを使って剣やスマホなど発想豊かに作りました。

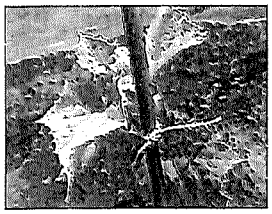
また、雑誌を参考にしながら絵を描き、ペープサートのようにして作ったものを遊びに活かしていました。

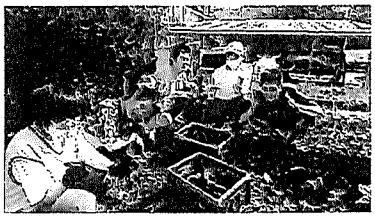


・畑作業

高校3年生を中心にトマト栽培に取り組みました。

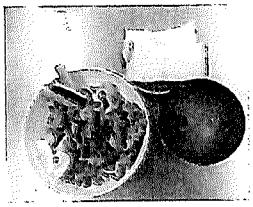
また、1年を通してピーマンやじゃがいも、さつまいもなど季節の野菜栽培に取り組み、種まきから収穫まで一連の作業に関わることが出来ました。

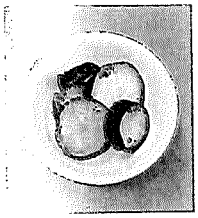




・調理実習、おやつづくり

今年も調理実習やおやつづくりにたくさん取り組みました。事業所でとれたじゃがいもやさつまいもを活用して調理に活かすことが出来ました。

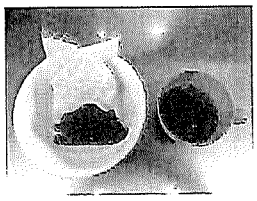


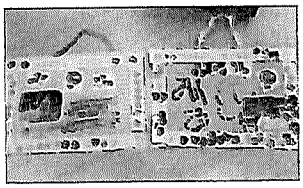
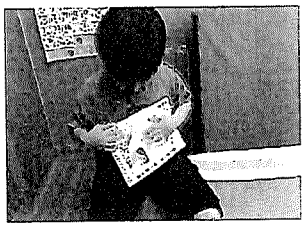


・イベントに向けた活動（こどもの日、母の日、感謝祭、ハロウィン、クリスマス会、誕生日会など各種イベント）

・こどもの日、母の日

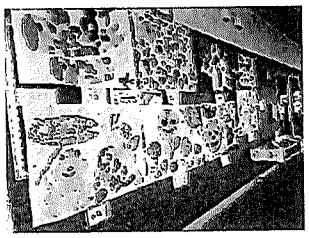
こどもの日には柏餅を食べてみんなでお祝いしました。母の日には１人１人壁飾りを作って持ち帰り、保護者への感謝を伝えました。

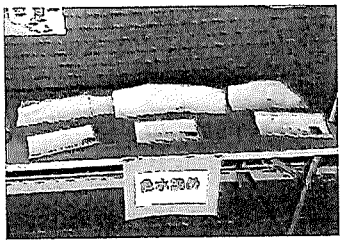


・感謝祭

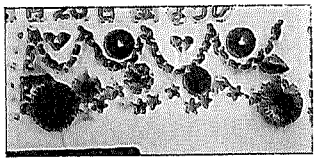
感謝祭では出店をまわったり、サチアレのダンスを披露しました。また、毎月取り組んできた壁画や個別作品の展示を行いました。普段とは違う雰囲気でお昼に焼きそばも食べてお祭り気分を味わえたと思います。





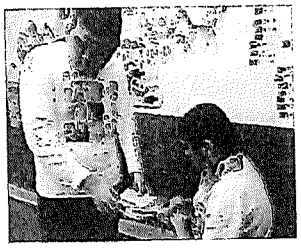
・クリスマス会

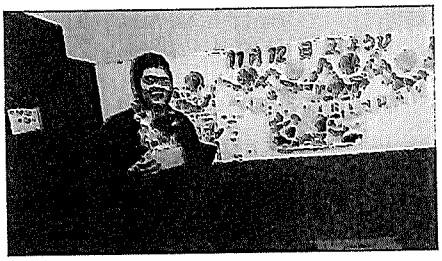
当日はクリスマスソングに合わせて踊ったり、楽器を持って音楽を楽しみました。また、クリスマスケーキをみんなで協力して作りました。

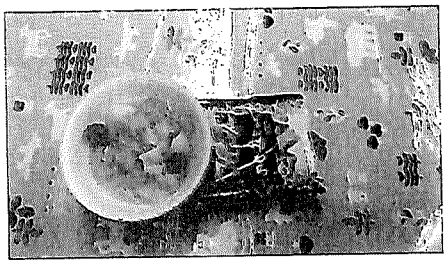


・誕生日会

ホワイトボードに飾りつけを行い、雰囲気作りから取り組みました。また、みんなでおやつ前に誕生日の歌を歌いました。その後は豪華なおやつを食べました。利用者の中には楽しみにしている子もおり、イベントの１つとして定着してきたと思います

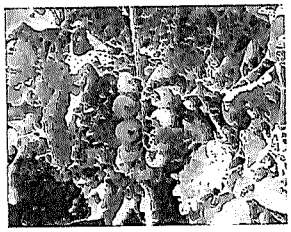


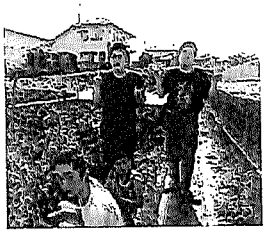




・卒業課題（高等部３年生を中心としたミニトマトの栽培～収穫）

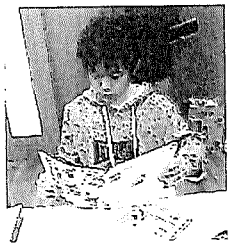
高校３年生を中心に年間を通して、トマトの栽培をしました。種まきから収穫までしっかりと行い、仲間同士で協力して取り組めました。

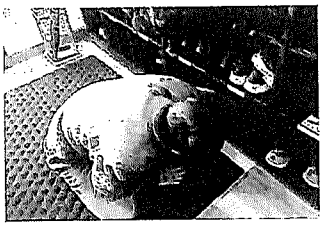




２．個別支援計画の修正、追加、変更の確認を充実（個々の能力を伸ばす取り組み）

・個別支援計画を基にして、現場での取り組みと関連付け、ケース会議や朝礼等で見直しを行いました。定期的に個別支援計画をもう一度見直し、はさみの練習や音読、係・当番制などの視点を変えた取り組みを現場で実践しました。





・指導員同士のコミュニケーション作りを図る

ケース会議や朝礼等で気になる利用者の行動を振り返り、指導員同士で利用者の状況を共通理解しました。小さなことでも共有し、そこから各利用者の興味や関心を知り、指導につなげられました。

3．外部地域住民との関わり

・感謝祭ではパンや野菜を買いに来た地域の方と少しながら交流することが出来ました。また、ダンスを披露し、地域住民に披露しました。

環境ボランティアでは施設周辺のごみ拾いを行い、地域の美化活動に貢献しました。

4．成果と課題

・成果

今年も昨年と同じで新型コロナウィルスの流行で外出企画は少なかったですが、お昼やおやつの買い物等感染症に十分注意していくことが出来ました。また、室内や室外の企画を指導員同士で工夫して考えました。室内企画としては、色水遊びやダンス教室など新たな取り組みに挑戦出来た１年でした。室外企画としては運動会という名前でケンケンパーや縄跳び、リレーなど仲間同士で協力して取り組めました。

また、調理実習やおやつ作りでは季節の食材を使ったり、行事に合ったおやつを作り季節感を感じることが出来ました。調理実習中でも利用者１人１人が自分から役割を見つけ、取り組めました。

さまざまなイベントを通して、「できない」ではなく「失敗してもいいからやってみる」というチャレンジ精神は徐々に身についてきたと思います。

個別課題としては支援計画を見直し、計画と現場の指導・支援が結びついているかを定期的に確認しました。日々の支援の中で課題を強制するのではなく利用者の気分に合わせて取り組めました。

・課題

ダンス教室、運動会、調理実習、誕生日会と定着していくイベントが多い中で、内容がマンネリ化しないように新たな視点での取り組みは今後も利用者の可能性を引き出す上では欠かせないため、今後も情報収集をしていきたいです

個別課題に関しては１人１人の障害特性を考えながら、利用者側から興味を持って取り組んでもらえる仕組みを改めて考えていきたいです

所　長	副所長	報告者

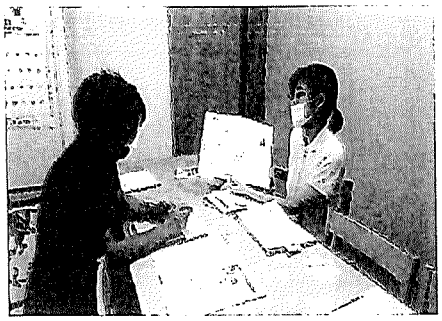
令和4年度　研修委員会年度総括

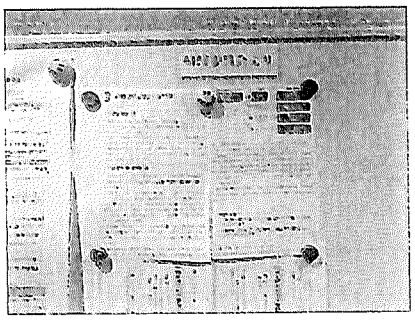
今年度委員会での活動

① 調べた記事をホワイトボードに掲示する。　掲示資料ファイル回覧

前期テーマ:「軽度障害の対応の仕方」
・みんなのねがい 2022.01
掃除の前に大切にしたいこと　　山口　特別支援学校教員　藤井佳樹
知ろう!学ぼう!　障害のことダウン症のある友だち
P30～P34
・みんなのバリアフリー②　障害のある人が困っていることを知ろう
～見た目ではわかりにくい障害～　発達障害と知的障害
・叱り方のコツ③　「ダメ」という言葉は使わない
・叱り方のコツ⑤感情的になって叱らない
・みんなのねがいより
この子と歩む“いのちと向き合い続けるわが子とともに”　2022.09 号
・学校と新型コロナ禍～先生へのアンケートから
・みんなのねがいより
特集　新型コロナ禍から2年～これまでとこれから
『地域にこだわって生きる』　全障研愛知支部　中野まこ氏　　2023.02 号
・みんなのねがいより
『掃除の前に大切にしたいこと』特別支援学校教員　藤井佳樹氏　　2022.05 号
・知って欲しい　子どもの「こころの病気」　監修：佐々木正美氏
・行動障害のある人の「暮らし」を支える
監修：特定非営利活動法人　全国地域ネットワーク

後期テーマ：『強度行動障害』について
・強度行動障害とは
・毎日新聞　強度行動障害の長男　「社会から見下され、心が折れた」家族介護
・みんなのねがいより
『自分づくり』をチームで支える　家族とともに年を重ねて　　小針康子氏　2022.03 号
笑顔を確かめ合いながら　Ｉさんと家族と 12 年　　近江容子氏
・広報ふじ 2022.11　　合理的配慮の提供
・はぐぐむ FUJI　2022.11　放課後等デイサービス
・強度行動障害との出会いから　　村上浄司氏(東京福祉大学　社会福祉学部)





②研修に参加した職員より報告会

研修発表①「強度行動障害養成研修(基礎研修)」　報告者:細野支援員

研修発表②「高齢者、障害者施設のための感染講座」　報告者:千葉支援員

研修発表③「知的障害者や発達障害がある人とのコミュニケーション講座」　報告者:初又支援員

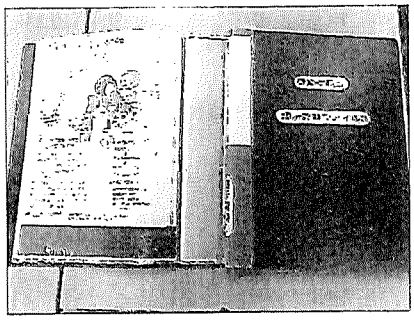
○反省　課題等:

・年度当初に計画していた"『みんなのねがい』を各部署で興味を持った記事に目を通すこと"への啓発が実施できなかった。次年度へ継続していきたい。

・年度後半は、委員会の時間変更により3部署が集まって行なう事が出来ないことがあった。報告書や口頭で情報は伝達した。

○次年度に向けて

・引き続き『みんなのねがい』の活用を増やしていく。
・テーマを決めて資料集めを実施
・研修報告は継続して行っていく。
・知識と実践を結びつけた取り組みを新たに考えていきたい



所長	副所長	報告者

令和４年度労働創造委員会年度総括

・テーマ

今年度テーマ「あわせてひとつ 第２章」

・活動目的

３部門がそれぞれの個性を生かしながら協力して一つの目標を達成させる。

＜仮説：３部門がそれぞれの個性を生かしつつ活動を行なう中で、共通意識を持ちひとつにまとまることができるか？＞

・活動内容

労働：夏の合同草取り作業

冬の環境ボランティア

畑全体の計画、管理、収穫、販売

創造：感謝祭に向けた共同作品作り

部門毎の継続作業：デイ 帰りの掃除／生活 環境ボランティア／B 型 環境ボランティア

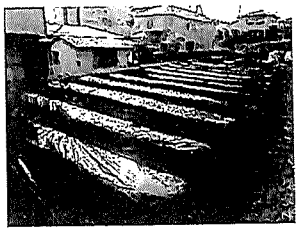
・成果

労働活動

・昨年 3 部門合同でできなかった夏の草取り作業が今年度は全体でまとまって行なうことができた。短時間ではあったがどの部門の仲間も皆集中して作業を行なうことができた。

・冬の環境ボランティアも障害者週間に合わせて各部門で計画、実施し、事故もなく落ち着いてゴミ拾いを行なうことができた。

・畑全体の計画、管理については年度途中から労働創造委員会主導で行なうこととなった。畑使用部分の決定や、秋冬野菜の計画、収穫、販売や令和 5 年度に向けての春夏野菜の計画などを行なった。2 月には 3 部門に加え、所長、理事長も交えてジャガイモの植付けを行なった。

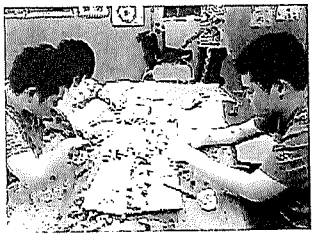


創造活動

・感謝祭へ向けての共同作品作りは昨年度の「翔」と組み合わせて「飛翔」という言葉が完成し、昨年度の反省である文字の意味やテーマ、目的などの説明もしっかりと行なうことができた。

創造作品、『飛翔』：今年のテーマは「あわせてひとつ第２章」です。「飛」の一文字を３つに分け、放デイ・Ｂ型・生活介護がそれぞれのアイデアで製作を行ない「あわせてひとつ」にしました。さらに昨年度の作品「翔」とも「あわせてひとつ」にして、『飛翔』の文字が完成しました。

飛翔・・・成長してより高い所に羽ばたいた仲間達が大空を自由に飛びめぐる様をイメージしてこの文字としました



継続作業

・デイ（帰りの掃除）ホワイトボードにカードを貼り付けて視覚的に確認できるようにしたところ、促しをしなくても自分から掃除に取り掛かることができ、自分からやろうという意欲が見えた。

・生活（環境ボランティア）ゴミを拾いながら近隣の方に挨拶をするなど、きれいにするだけではなく、地域との交流にもつながった。仲間達も火ばさみの取り扱いも慣れてきた。

・Ｂ型（環境ボランティア）地域の方と挨拶をしながらゴミを拾うことができた。前年度より交通ルールを守り道路を歩くことができた。缶とペットボトルを分別してゴミ袋に入れることができた。

・反省、課題

労働

・畑の管理については、感謝祭に予定していた大根の収穫タイミングのずれや虫食いなどの対策や管理不足が出てしまい、失敗が多かった。

創造

・２年越しの作品だったので（仲間たちは）意味がつかみにくかったのではないか？仲間たちに対しての説明や案内が不十分だったかも知れない。

継続作業

・デイ（帰りの掃除）お迎えの時間が保護者によってマチマチなので、掃除の時間にいない利用者さんもいて偏りが出てくることがあった。

・生活（環境ボランティア） 外出となるので、仲間たちの安全確保やゴミの取り扱い方法等どに引き続き注意が必要。

・B型（環境ボランティア）年に一度しか実働できなかったため、継続的にできる作業に変更する必要がある。

・まとめ（考察）

3部門それぞれが一つの目標に向かい、協力して活動を行なうことができた。

デイ/B型/生活が集まって活動することがあまりない為、この様に事業所全体が共通意識を持って活動に参加することで、今年度のテーマである「あわせてひとつ」になれた。

創造作品である『飛翔』も分割した文字を各部門毎にそれぞれのアイデアで個性的に作成した後で、「あわせてひとつ」にし、素敵な作品が完成した。

皆が同じ目標に向けて頑張ることで、他の仲間を意識する事や、皆でやりとげたという達成感を感じてもらえたのではないか。今後も事業所全体での活動を計画し、労働意欲の向上や創造的思考を高めることにつなげていく。

・次年度に向けて

労働

・夏の合同草取りは継続して行いたい。作業時間を10分から15分に延ばす事も検討する。加えて夏と秋ごろの2回程度、生活・B型・デイの職員・事務参加での草取りも行いたい。

・冬の環境ボランティアも継続して行いたい。

・畑計画表の作成（施肥や植付、収穫予定等）及び活用、同じ野菜でも種まきのタイミングをずらして収穫時期を拡げる、消毒や追肥でもっと良い野菜を作ることを目指す。

創造

・感謝祭を発表の場として、作品作りを計画する。

継続作業

・デイ 帰りの掃除の継続

・生活 環境ボランティアの継続

・B型 建物の掃除を行なう

R5.2.22

生活保健委員会令和４年度活動総括

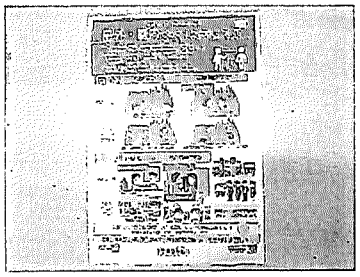
テーマ：健康で楽しく楽しく過ごそう

活動日時：５月１０日、６月７日、７月５日、９月２０日、１０月８日
　　１１月１５日、１２月１３日、２月１４日

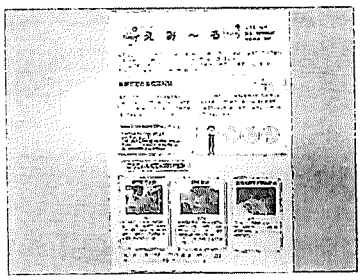
年間活動内容案
- お便り「えみ～る」冬号の発行（１２月）
- コロナ、ノロなど感染症の注意喚起に関するリーフレット配布
- ＡＥＤ講習
- 嘔吐処理に関する活動（点検・補充・訓練・職員への指導）
- 薬事情報の整理
- 緊急時対応訓練（てんかんについての対応学習）

活動内容

１．コロナ禍での生活においての基本的な生活様式のリーフレット配布
　　コロナ感染対策としてのマスクの着用について屋内外での新しいルールについてのリーフレット配布を行なった。（８月配布）



２．えみ～る冬号発行（１２月初旬配布）
　　感染症対策の観点から「衛生管理」について取り上げた。
- 主な記事「家庭でできる感染対策のための衛生管理」
- ごうでぃんぐでの取り組み



３．ＡＥＤ講習はコロナ禍のため今年度も中止した。

４．嘔吐処理に関する活動（グッズの点検・補充、訓練、職員への指導）
５月に各部内および車両のグッズ点検と補充を行なった。
生活：部署内、ハイエース、ヴォクシーの点検補充→５月２６日完了
Ｂ型：部署内、パッソの点検補充→５月１８日完了
デイ：部署内、ノアの点検補充→５月２６日完了
これらグッズは今後使用した都度補充し、毎年初旬に点検を行なう事とした。

５．薬事情報の整理
各部の利用者情報から薬事情報を取り出し一覧にまとめた。
提出・回覧の後、委員会にて保管している。
各部の支援に役立ててもらう。

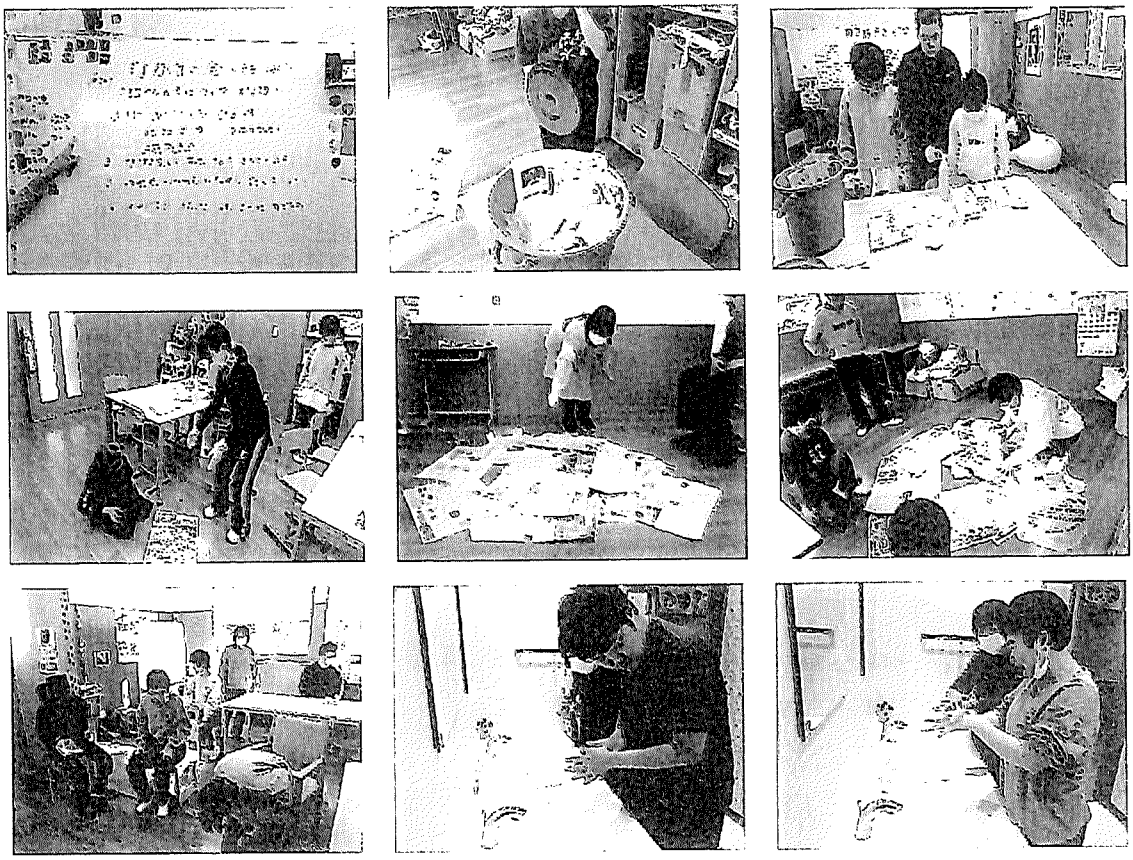
６．てんかんについての情報収集と学習
・デイ職員からの実際の対応や記録についての情報
・ネットなどでてんかんの基本情報を収集
・勉強会への参加による情報
得られた情報をまとめ、今後職員に向けた学習資料として作成していく。
（次年度作業）

７．緊急時対応訓練
今年度はてんかんの学習を対応訓練に予定していたが、流行の時期で事業所の依頼もあり「ノロウィルス二次感染予防のための嘔吐処置訓練」に変更して行なった。
実施日は以下の通り
デイ：１１月１９日、生活介護：１１月２４日、Ｂ型：１１月２８日

今年度は各部活動中に行い、仲間も訓練に参加し一緒に学習した。
仲間が嘔吐したと仮定し以下の訓練及び学習を行なった。

・嘔吐処理グッズを紹介しながら装具の装着や処理のデモンストレーション
・その時の他の仲間の動きや職員の動きについて考える
（患者の対応と隔離のための仲間の移動について。別室への移動時の注意点と職員の誘導の仕方）
・感染症対策の講習を受けた職員の報告書を活用した注意点などの説明
・手洗いの練習（当日生活介護では看護師も同席できたため、仲間は手洗いの指導もうけることができた）

以上を行なった。



5．成果

・年間の活動計画はAED講習を除き行なうことができた。
・毎年行っているノロウィルス二次感染予防については、委員会活動として定着しており、訓練として全職員に周知された。
・新しい取り組みとして薬事情報の整理やてんかんについての話し合いを行ない、今後の活動につながる布石ができた。
・「えみ～る」やリーフレットによって健康管理の情報が提供できた。

6．課題

・対応訓練が定着しているとはいえ、嘔吐処理についてはまだ職員全員がスムーズに対応できるとは言えない。一年一度の訓練ではなく、繰り返しの練習で誰でも対応ができるようにしたい。

・今年度は花壇の植込みで蜂に刺された事例があった。ムカデなどに刺された時の対応や怪我による破傷風の危険性と対応についても考えたい。

・今年度行えなかったAED講習も再開したい。

まとめ・・・一年の活動を通して・・・

嘔吐処理については委員会として定着した活動となっている。一年の流れもできてきた。このほか今年度は薬事情報の整理やてんかんについて学び活動の幅を拡げることができた。新型コロナウィルス感染症については近々５類になり、インフルエンザなどと同等になるようだが、引き続きその時々に合った注意喚起は必要と思われる。

それぞれの活動では今後より深くまたは広く取り組み事業所として利用者とその家族、職員の健康に役立つ活動にしていくことが必要と感じる。

今年度は途中から活動時間が３０分に短縮された。職員間のコミュニケーションを密にし作業の簡略化・分担化を強化して行わなくてはならない。

次年度も様々な活動に取り組み生活保健委員会としての役割を果たしていきたい。

令和　5年1月19日

所長	副長	報告者

議案者　　海老澤　亜衣

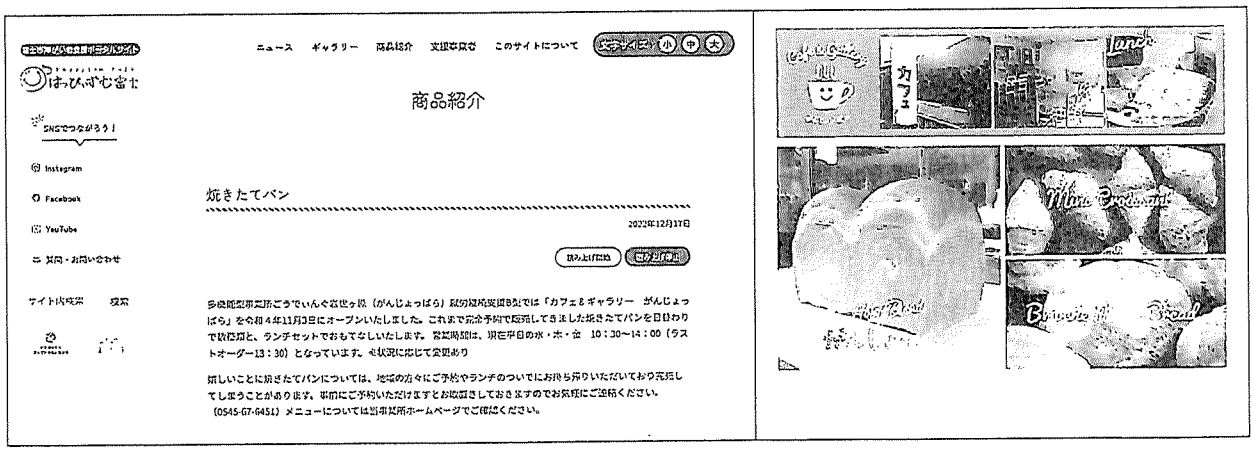
令和４年度　広報委員会活動報告

今年度の広報委員の役割

1. ごうでぃんぐ岩世ヶ原の業務内容の周知
2. 就労継続支援B型の販促物・PR
3. 渉外関係

令和４年度　事業成果

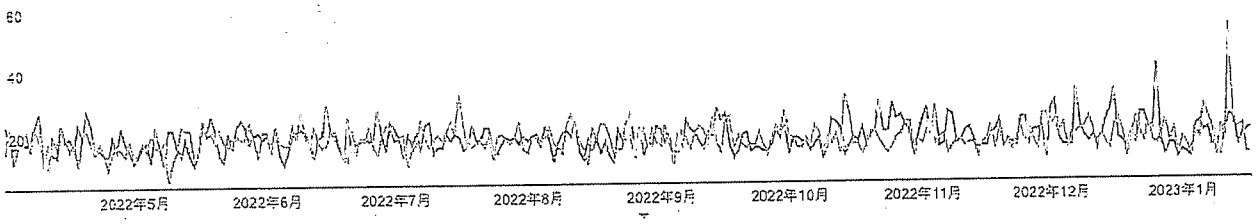
1. パンフレット改定、ホームページ更新、FB更新
2. 第三者委員の評価に伴う加筆修正
   ・決算報告等HPにUP　・スローガン、三本柱等をHPやパンフレット、事業所内の目につく場所に配置
3. B型一般カフェオープンに向けての準備（のぼり旗、チラシ、HP特設ページなど）
4. ・外部との交流として、育成会　事業所説明会参加（7/30、8/6 インスタライブ）
   生活とＢ型の動画を提出→インスタライブ後はFBにて公開
   ・福祉事業所ガイドブック 2022 掲載
   ・福祉まつりの代わりに今年度は「はっぴぃずむ富士」という富士市の障がい者支援ポータルサイトが開設され、事業所案内とＢ型のパン紹介ページを作成



5. 自閉症啓発デー画像作成、ギャラリー用動画作成、感謝祭POP作成、日産労連お礼状など作成、はたちの祝い写真撮影・デザイン、イベント時撮影

令和４年度　ホームページアクセス解析報告

2022/04/01 - 2023/01/17:　ユーザー
2021/04/01 - 2022/01/17:　ユーザー



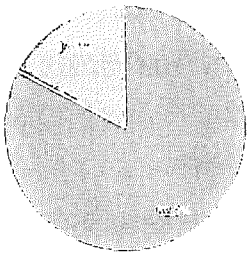
ユーザー	新規ユーザー	セッション
-0.79%	-1.19%	11.59%
1,872 と 1,887	1,833 と 1,855	6,458 と 5,787

ユーザーあたりのセッション数	ページビュー数	ページ/セッション
12.49%	18.29%	6.00%
3.45 と 3.07	51,754 と 43,752	8.01 と 7.56

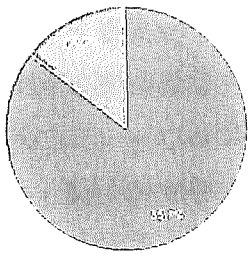
平均セッション時間	直帰率
31.03%	79.22%
00:05:51 と 00:04:28	2.35% と 1.31%

New Visitor　Returning Visitor

2022/04/01 - 2023/01/17



2021/04/01 - 2022/01/17



青いグラフが今年度で、昨年より若干訪問者数が減ったが、誤差の範囲でありほぼ変わらず推移する形となった。

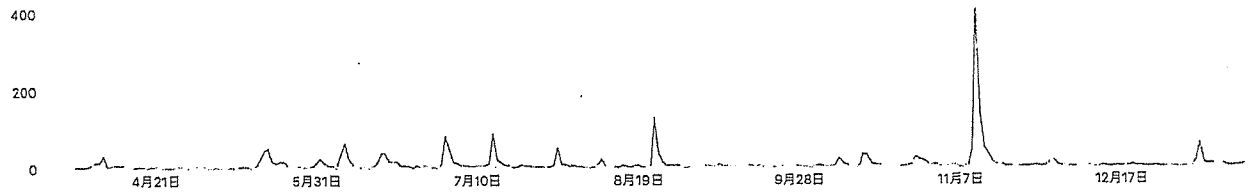
ページ	ページビュー数	ページ別訪問数	平均ページ滞在時間	閲覧開始数	直帰率	離脱率
	51,754	17,455	00:00:50	6,455	2.35%	12.47%
1. /	8,394 (16.22%)	3,223	00:00:20	3,073	3.38%	12.15%
2. /g_day/	7,267 (14.04%)	2,319	00:01:00	1,061	0.09%	17.48%
3. /g_sei_works/	4,828 (9.33%)	2,068	00:00:35	272	2.57%	22.54%
4. /g_b_works/	3,444 (6.65%)	1,334	00:00:30	49	2.04%	13.21%
5. /g_day/2020/07/	1,679 (3.24%)	287	00:01:40	173	0.00%	10.07%
6. /gdc-info/	1,643 (3.17%)	532	00:00:30	101	4.95%	15.16%
7. /report/	1,480 (2.86%)	480	00:00:15	52	5.77%	6.42%

ページビュー順に、1.トップページ 2.放デイブログ　3.生活ブログ　4.B型ブログ　5.放デイブログ（過去ページ）　6.事業所案内　7.お知らせ一覧　という順番となった。全体の15%を占めるデイは人気のコンテンツであることがうかがえる。

令和４年度　フェイスブック解析報告

Facebookページのリーチ ①

1,086 ↓ 16.1%



昨年より投稿数が減ってしまったせいもあり、アクセス数も減ってしまった。ただフェイスブック自体も”メタ”に改名しインターフェイスが変わり、全体的に使いにくくなったことによりユーザーが他のSNSへ流れてしまっている可能性もある。

令和４年度　活動の反省

SNSの活用について、昨年度の福祉まつりは、youtubeに動画を集めて開催したり、今年度は育成会がインスタライブを活用したりと保護者により使われているツールを選択する必要があると思われる。今年度ごうでぃんぐでもインスタグラムのアカウントを取得し現在ツイッターとフェイスブックの３つのアカウントを持つこととなった。またgoogle mapでも事業所の登録を行っており、B型の商品のPRに使用している。欲しい情報が的確に取得できるよう情報の整理を行い、これらのツールを生かしていくとともに、費用対効果も意識した改善を行っていきたい。

また例年行なっている感謝祭の前後で広報が新型コロナの濃厚接触者となり自宅待機となった。そのため準備が途中となった部分を、副所長を始め職員で分担して作業を行なってくれた。これまで広報のみで行なっていた部分が裏目に出た形となった。次年度は感謝祭実行委員をより強化していくこととなったので、作業工程の明朗化を計りたい。